

地球の環境を守る人になりませんか？

共生環境学科 自然環境システム学講座

1. 結局は 何をしている講座 ですか？

非常にわかりにくいと思いますが、他の多くの大学の、**次の学部・学科をあわせてのもの**と考えていただければわかりやすいでしょう。

理学部 地球科学系学科（**気候・気象学**、**海洋学**、**水文学**、**生態学**、**土壌学**）

農学部 森林科学系学科

理系学部の 環境科学系学科

つまり、**理学部系の学部**に行きたかったら、**この講座で勉強できる**ってことです。**地球科学系と生態学の一部**ですけど、ちなみに、**魚類系**などは、隣の**生物圏生命科学科**が、**理学部**と同じようなことをやっています。**森林科学**などの**農林水産系**もあります。探せば**環境工学系**もあります。

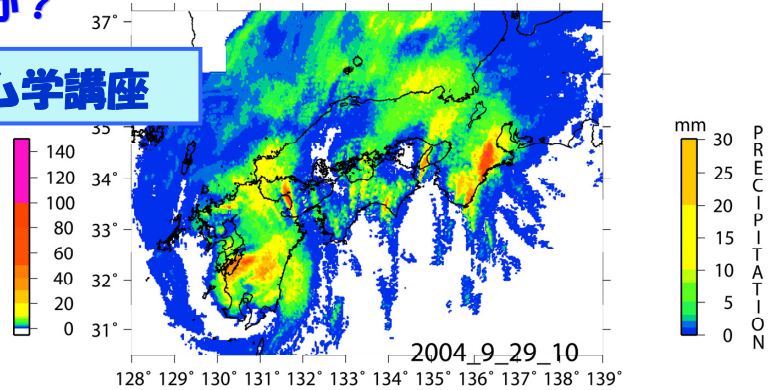
2. 教育研究内容は、高校の科目でいうと、何に対応していますか？

教職免許取得のための教育実習では、**物理**を選ぶ人と、**生物**を選ぶ人、**化学**を選ぶ人がいました（H18年度実績）。もちろん、**地学**は、**地球科学**と最も密接に結びついています。

数学者を育てる教育はやっていませんが、高度な**数学**を使った研究もできます。

3. 学科内の、他の講座とどう違いますか？

この学科は、いずれも**環境科学・環境工学**を扱う講座からできています。その中でも、**自然環境システム学講座**は、特に「**理学的手法**」にこだわる講座だと思って下さい。



4. 将来は何になれますか？

環境科学・自然科学等の**研究者**、それらの分野の**技術者**、**コンピューター**などの知識を生かした**技術者**、**公務員**、**教員**などになれます。資格関係では、**気象予報士**を目指した授業をしています（三重県でここだけです）。





講座の概要

私たちの母なる星、地球。この地球の環境は、いま激しく変わろうとしています。地球を構成する大気、海洋、土壌、また森林をはじめとする植生、大気中の雲粒から海水まで大きく姿を変えながら循環する、水。これらの基本的な構造や、地球環境を変えつつある様々な仕組みについて、自然環境システム学講座では教育研究をしています

講座の構成

自然環境システム学講座は、次の五つの教育研究分野から構成されています。それぞれの教育研究分野の紹介は、分野名をクリックして下さい。

地球環境気候学教育研究分野

海洋気候学教育研究分野

水域環境学教育研究分野

緑環境計画学教育研究分野

環境解析学教育研究分野

学内の1,2年生 これから講座に来られる方

基本的に、生物資源学部は理系学部です。その中でも自然環境システム学講座は、生物学はもちろん、数学（特に解析学や確率統計学）、物理学、地学、化学が好きな学生の興味を満たすことができると考えています。地球環境気候学教育研究分野、海洋気候学教育研究分野の名前の示すとおり、これらの分野では、環境・気候・海洋に関する教育を受け、研究をすることができます。また、環境解析学教育研究分野でも、温暖化をはじめとする気候変動、地理情報システム（GIS）に関する研究を行うことができます。これらの教育研究分野では、他大学では理学部で受けるような教育を受けることができ、研究を行うことができます。

一方、水域環境学研究学教育分野では、同じように、理学的な教育研究に加え、工学的なアプローチ、農学的なアプローチで「水を科学」します。緑環境計画学教育研究分野では、農学・林学的なアプローチで、森林や植物群落の果たす役割を教育研究しています。

以上のように、自然環境システム学講座では、非常に多岐にわたった学際的なアプローチで、自然環境システムを考えていることがお分かりいただけたかと思えます。

卒業後、修了後の進路

我々は、学部生には大学院に進んで、さらに広い知識を身につけてから社会に出ることを勧めています。しかし、それは個人の自由ですし、もちろん、大学院に進むか、学部終了時に就職するかは、自分で決めることです。

学部卒業生、大学院修了生の主な就職先は以下の通りです（改組前の対応講座の分を含む）。

大学院に進学

環境計画・評価に関するコンサルタント会社

リモートセンシングによる環境モニタリング企業

大気・気候等の情報に関連する企業および公的研究機関

各種公務員

大学教員

講座事務室：059-231-9590（電話）059-231-9591（FAX）

講座web page URL <http://www.bio.mie-u.ac.jp/kankyo/shizen/>

研究

地球環境気候学

GISとリモートセンシングを用いた環境気候変動調査・解析

自然資源管理のための現場調査と土地利用・被覆図作成

地球環境気候問題（大気・水汚染、森林破壊、温暖化、砂漠化等）の解析

持続可能な開発のための人間と自然との共生環境モデリング

アフリカ農村地の現地住民による参加型開発の調査・計画・アセスメント

海洋気候学

黒潮や親潮の変動解析

海面水温が中高緯度の気候大循環に及ぼす影響

地球の温暖化に関する海面水温の影響

オホーツク海の海水モデルの研究

伊勢湾・紀伊半島沿岸の海洋循環

水域環境学

生態系を含めた流域水環境のモデル化

水工学的アプローチによる河川流域管理

気候変動による水環境変化の予測

野外における熱・水・物質移動の探査

土壌における水の自然浄化過程のモデル化

水利施設管理の水理学的研究

安全で高品質な農産物生産のための遠隔地環境モニタリングシステムの構築

洪水災害防御

数値モデルによる気象シミュレーション

温暖化実験結果のダウンスケーリングと統計解析

緑環境計画学

森林土壌の環境保全機能

森林の成長モデルと森林資源の管理

森林環境の保全を目的とした森林計画の立案

生物圏の環境に及ぼす森林の影響

持続可能な森林経営と中山間振興

熱帯林の再生と地域林業

環境解析学

地理情報システムを用いた環境評価と防災計画

大気環境科学：大気汚染、地球温暖化問題

熱帯雨林域の気候・環境変動論

氷河時代の古気候変動論

景観評価・景観設計

景観生態学・保全生物学